

3. 参加者との意見交換

【商工会でのマイバック運動の取り組みについて】

A： 東洋町で小さなスーパーを経営しています。この仕事に携わっている37年間で感じたことは、目を覆いたくなるような東洋町の人口の減少と、産業の衰退です。高知県の東の玄関口と言えば聞こえはいいですが、逆の見方をすれば県都から一番遠いということです。それからもっと怖いのは、住民がどうせどんなに頑張っても、人は減っていくし、商売は細っていくという無力感を持っていることです。私は事あるごとに、そうじゃないよ、諦めずに頑張ったら道は開けてくるよ、うまいこといくよと皆に言い続けております。

東洋町商工会では、平成12年からマイバック運動に取り組んでいます。当時の町長が計画に賛同してくれまして、マイバックを全世帯に配布しました。そのマイバックを店に持って行ってレジ袋をもらわなかったら、マイバック券を1枚もらえ、40枚たまると、100円の買い物券になるというものです。1年に1度、マイバック券20枚で1回引ける抽選会をやっております。

複数の店で共通のマイバック券を発行することを思いついたのは、2つのスーパーマーケットがそれぞれ、レジ袋を断ったらスタンプを押すということをしていて、別々に押してもらっていたらなかなかスタンプがたまらないのではと思い、現在の方法を思いつきました。これがなかなか大当たりで、今も平成12年当時と同じぐらい使用されております。

本当は、四万十市や東洋町の隣の徳島県海部郡でやっている、レジ袋を使うお客様から、店側が5円いただくという方法のほうがレジ袋削減に効果はあると思うんですが、私たちは「良いことをしたら報われる」、お客さんに返すという方法をとっていきたくないとずっと思っています。

今、私たちはいろんなことを考えて取り組んでいかなければならない状況になっております。そうでなかったら、東洋町は10年後ぐらいにはただの集落になっていくかもしれないと思います。

知事： お話にあった、人口減少と産業の衰退については、県内の全体的な課題かと思えます。だからこそ、産業振興を官民協働で徹底してやろうということで、今、産業振興計画を進めているわけです。

世界ジオパークの認定、これを何としても勝ち取っていきたく思うんですね。これは東部地域の振興にとってもすごく意義のあることだと思います。私が非常に取り組みたいと思っていることは、高知県の東から入ってくる観光ルートを作るということです。現在、高知県に入ってくる観光客は愛媛・道後の方から入って、幡多を抜けて、高知を抜けて高松の方に行くという、いわゆるCルートと言われる、西回りが多いですね。もしくはこの逆。もし、ジオパークが認定されて東回りの観光ルートができれば、高知県の観光は両翼で立っていける、大きく飛躍するチャンスを得ることができると思っています。

淡路島から徳島を抜けてきて、東回りで高知に入ってくるルート。もう1つ言えば、こ

のルートがさらに幡多の方まで行ってきて、高知県で1泊、2泊、3泊してくれるかもしれない、こういう夢もあるルートだと思っています。幸い、大河ドラマ「龍馬伝」の効果もあって、安芸・北川村・室戸もしかり、1個1個観光資源が積みあがってきています。これにジオパークというインパクトのある政策が加わっていくことで、大幅に観光商品として魅力がアップする可能性は出てくると思います。その時の玄関口としての東洋町の力というのは、ものすごく大きいものがあると思うんですね。

東洋町はいろんな資源が豊富ですが、単独でやっておられる地域アクションプランの数が非常に少ないです。東洋町の資源を生かして、産業振興計画はまだまだ続けていきたいと思っています。新しく地域アクションプランを作っていただいたり、さらに地域アクションプランまでいかななくても、その前段階のステップアッププランなんていうのもあります。例えば、四万十市では若い方々がLLPという有限事業責任組合を作って、ステップアッププランを利用してお菓子のカリントウを作られました。そうしたら、いきなり東京のコンビニで売れるぐらいまで成長しています。

何と言っても、地域アクションプランとなるもの、例えば観光で東回りルートを開発する、東の玄関口として、観光客を引っ張ってくる力に関わるようなものなどを是非東洋町さんとやらせていただきたいなと思っています。東回りの観光ルートを作る、戦略上の要衝だと思っています。

マイバック運動は、地産地消にも関わってくる素晴らしい取り組みだと思います。